

Ⅶ 学生支援

1 指導教員制度

本学教員の役割は、教育・研究のほか履修、学習への指導・助言、課外活動ならびに学生生活全般に対する指導・助言などがあり、本学では開学以来指導教員制度を設けている。

各クラスに原則として専任の指導教員をおき、学生に対して次の役割を果たす。

- ① 履修計画及び履修方法についての指導・助言
- ② 進路についての指導・助言
- ③ 学費延納、休学、復学及び退学等の願書に対する指導・助言及び保証人等への連絡
- ④ 各種変更届及び各種手続きについての指導・助言
- ⑤ 各種奨学金についての指導・助言
- ⑥ その他学修上についての指導・助言

なお、入学時から卒業時まで同じ指導教員が学生の指導にあたることを原則としている。

2013 年度の指導教員は以下の通りである。

学 年	クラス	指 導 教 員
1 学年 (12KF 生)	I クラス	中谷 啓子、小川 景子
	II クラス	丹澤 洋子、橘田 節子
2 学年 (11KF 生)	I クラス	中田 芳子、千葉 美果
	II クラス	鈴木 陽子、秋元 とし子
3 学年 (10KF 生)	I クラス	瀧澤 直子、新村 直子
	II クラス	林 真理子、後藤 雪絵

2 健康推進室

1) 位置づけ・役割

健康推進室は、学生が自ら心と身体の健康を保持、増進し、楽しい学生生活を過ごせるように側面から支援する施設である。役割としては、①学校保健安全法で定められている定期健康診断の実施及びその後のフォロー、②健康相談及び指導、③健康教育、④応急処置、⑤学校行事での救護)、⑤小児期感染症の抗体の有無を把握し、ワクチン接種及び血液検査による抗体確認の推奨、⑥B型ワクチンの予防接種、⑦各クラスの保健委員を指導し、健康意識の向上を目指して活動すると共に、学生の飛鷗祭での健康教育のサポート、⑧湘南健康推進会議へ参加し、湘南健康推進センターの拠点校として情報共有及び問題解決能力向上のための研修に参加。さらに2012年度に、学校法人東海大学、災害発生時における初動対応マニュアル（医療技術短期大学用）が作成され、⑨健康推進室長の役割として（・救護所の設営、・負傷者及び病人の応急処置、・救護物資の管理、・記録集約）が明記された。

健康推進の担当は、看護学科の教員3名が兼務しているため、講義や実習で不在のこともある。そこで、日常的に学内の他の教職員と連携、協力し、また、隣接している東海大学湘南健康推進室とも緊密に連携しながら業務を遂行している。

構 成 員	
室 長	秋元 とし子 (准教授)
室 員	新村 直子 (准教授)
室 員	後藤 雪絵 (助教)

2) 活動概要

定期健康診断は2010年度から湘南健康推進室を借用して実施するようになり、次第に連携調整も順調にすすみ準備、実施、片付け等スムーズであった。感染症に関しては、後期ガイダンスで、小児期感染症、B型肝炎のワクチンの必要性及び季節性インフルエンザの症状と対処についての指導を行った。B型肝炎ワクチンについては、湘南健康推進室を借用し、3回実施した。2012年度は、学生数が多いため、皮下注射は医師2名が担当した。また、学生には、ワクチン接種後、抗体検査を行う必要があることも指導した。2月の定期試験期間に季節性インフルエンザに罹患した学生が数名いたが、事務室と連携し罹患の現状を把握し、全学に対し、再度掲示にて指導の強化を行い、モニタリングを実施した。結果、大きな拡大はなく、終息した。

2007年4月からの構内禁煙に伴い、これまで保健委員会とサポート学生で、11月の飛鶴祭に企画を発表してきたが、2012年度は学生会企画として健康教育企画を位置づけ、これまでのミニ健康診断に加えて『防煙教育』を位置づけて取り組んだ。この教育は学生会の企画であるが、保健委員会が中核となり、サポート学生の協力のもと掲示の発表、「やにけん」などを実施し好評だった。

2012年度の活動状況は表1の通りである。

(B型肝炎のワクチンは、3回で1クールとなっており、対象者は3つのコース(A:通常コース・B:1週間遅れでスタートした学生対象のコース・C:前期体調不良のため後期から開始した学生対象のコース)のいずれかで受けている)

表1 2012年度年間業務内容

月	日	活 動 内 容
4	1	新入生オリエンテーション(入学式)のための救護待機
	3	前期ガイダンス 新入生対象に健康管理についてオリエンテーション(定期健康診断、禁煙教育「何故禁煙が必要なの?」他)
	4	前期ガイダンス 2・3年生対象に健康管理についてオリエンテーション(健康推進室の役割、定期健康診断、禁煙教育「何故禁煙が必要なの?」他)
	17	保健委員会(委員長・副委員長の決定、健康診断について)
	18	教授会で2011年度の健康推進室の利用状況、2012年度の学生生活支援調査の結果を報告
	18	湘南健康推進室にB型肝炎ワクチン接種に関する依頼文書を提出
	21	定期健康診断(湘南健康推進室にて)
	21	3年生対象の老人看護実習の検便検査の提出(湘南健康推進室にて) (赤痢菌、サルモネラ、病原大腸菌、MRSA, 0-157)
	24	健康診断欠席者の再検診
		B型肝炎ワクチン接種に関する説明(掲示と口頭説明、申し込み書配布)
		健康推進室期限切れ薬品等の処分と補充
	27	第1回目検尿予備日
5	7	第2回目検尿予備日
	16	B型ワクチン接種申し込み書に不備がある学生を掲示で呼び出し指導
		3年生に便細菌検査結果返却
	28	第1回B型肝炎ワクチンの説明と予診表配布
	29	第1回B型肝炎ワクチン接種(Aコース①)
6	5	第1回B型肝炎ワクチン接種(Bコース①)

6 ~ 24		1 年生の面接指導：既往歴がある学生、ツ反強陽性、ツ反陰性の学生、心理面サポートが必要な学生等の学生に対する面接
	25	第 2 回 B 型肝炎ワクチンの説明と予診表配布
	26	第 2 回 B 型肝炎ワクチン接種（A コース②）
	27	湘南健康推進室と健康診断の振り返りの会議に出席
7	3	B 型肝炎ワクチン接種（B コース②）
	13	1 年生へ健康診断結果個人票返却
	7	2 年生へ健康診断結果個人票返却
8	3	3 年生へ健康診断結果個人票返却
	6	デンマーク看護研修に向けて依頼物品の準備
		健康推進室整備（夏用掛け物等への交換）
9	5	後期ガイダンス 1・3 年生対象に健康管理についてオリエンテーション、医療従事者に必要なワクチンについて
	7	東海大学短期大学（部）スポーツ大会救護
	12	後期ガイダンス 2 年生対象に健康管理についてオリエンテーション 医療従事者に必要なワクチンについて
	14	健康推進センター拠点校会議に出席
	19	B 型肝炎ワクチン接種（C コース①）
10		健康推進室整備（冬用掛け物等への交換）
	12	第 3 回 B 型肝炎ワクチン接種
	17	B 型肝炎ワクチン接種（C コース②）
	17	湘南健康推進室に健康診断実施に伴う施設借用の文書を提出
	17	湘南人事課宛に健康診断実施に伴う補助 10 名の依頼文書を作成
11	1 ~ 3	飛鶴祭にて保健委員が中心となり「禁煙・防煙」に関する展示・「やにけん」「禁煙のアロマ」のコーナーを開催
	2	飛鶴祭クラス対抗スポーツ大会の救護
	10	推薦入試のため救護準備
	14	東海大学子宮頸がん啓発プロジェクト中間結果報告会に出席 東海大学校友会館
	15	第 45 回学校法人東海大学健康推進会議のための現状報告提出
	26	第 3 回 B 型肝炎ワクチンの説明と予診表配布
	27	第 3 回 B 型肝炎ワクチン接種（A コース③、B コース③）
12	6, 7	第 41 回学校法人東海大学健康推進会議（統合実習のため欠席）
1	28	一般入試のため救護準備
2	13	B 型肝炎ワクチン接種（C コース③）
	22	付属推薦入学者の支援報告書が送付される。支援の必要な学生の把握を行う。
	28	4 月の健康診断について湘南健康推進室との打ち合わせ 健康診断の補助業務担当者についての検討及び依頼文書発送
3	13	便検査に向けて昭和メディカルサイエンスと打ち合わせ、検体容器の受け取り
	14	健康診断に向けて東友会と打ち合わせ
		健康診断実施に向けてのサポート教員（5 名）を学科主任に依頼
	25	卒業式の救護のため待機
		医薬品在庫調査・医薬品廃棄

	健康推進室の清掃・年報作成
	入学者からの小児期感染症・ツベルクリンに関する質問への対応

3) 定期健康診断について

学校保健安全法に基づく定期健康診断を2012年4月21日(土)に東海大学湘南健康推進室で実施した。検査項目は全学年対象に身長、体重、尿検査、血圧測定を行ない、胸部エックス線検査は、1年生全員と2、3年生のうち入学時にツベルクリン反応が、陰性と強陽性の学生を対象に実施した。なお、3年生に対しては、視力検査も行なっている。老年看護学実習施設からの依頼により、検便も併せて実施している。当日、269名中、263名受診、6名欠席であった。受診率は97.8%であったが、欠席者に対しても後日、湘南健康推進室で実施した。

3 奨学金

1) 各種奨学金

本学では、経済的な援助を必要とする学生のために、本学独自の奨学金制度(東海大学医療技術短期大学奨学金)をはじめ、母里知之学生支援資金奨学金、医療技術短期大学望星奨学金、神奈川県看護師等修学資金、日本学生支援機構奨学金を取り扱っている。

(1) 東海大学医療技術短期大学奨学金(給付)

目 的	東海大学の精神を体得し、将来世界文化の創造発展に寄与する有為な人材の育成に資すること。
資格・条件	年度末終了時の成績優秀な者。1年は前期成績優秀者。
給付額	年額 300,000円(1年のみ 後期 150,000円)

(2) 東海大学医療技術短期大学母里知之学生支援資金奨学金(貸与)

目 的	東海大学の精神を体得し、将来看護学(医療)及び関連領域の創造発展に寄与する有為な人材を育成するために、奨学金の貸与及びその他学生の支援をすること。
資格・条件	① 学業成績、人物ともに良好で、経済的理由により学修が困難な3年生。 ② 卒業の翌年度に、東海大学医学部付属4病院のいずれかに看護職員として就職を希望する3年生。
貸与額	3年次の前期又は後期で、540,000円を限度とする。

(3) 医療技術短期大学望星奨学金(貸与)

目 的	東海大学建学の精神に立脚した優秀な看護職員の養成に寄与すること。
資格・条件	東海大学医療技術短期大学に在籍し、健康にして、学業・人物共に優れ、経済的支援の必要ある者。
貸与額	月額 30,000円。年2回、6ヶ月分180,000円ずつ銀行振込。

(4) 神奈川県看護師等修学資金(貸与)

目 的	将来県内において、保健師、助産師、看護師等の業務に従事する有能な人材を育成するため、貸付に関し必要な事項を定め、もって公衆衛生の向上及び増進を図ること。
資格・条件	県内の看護職養成施設に在学し、成績が優れ、卒業後県内で看護職として従事す

	る意思がある者。
貸与額	月額 20,000 円。四半期毎、60,000 円ずつまとめて銀行振込。

(5) 日本学生支援機構奨学金 (貸与)

目的	優れた学生生徒で経済的理由により修学に困難がある者に対し、学資の貸与等を行うことにより、国家及び社会に有為な人材の育成とともに、教育の機会均等に寄与すること。
資格・条件	人物・学業共に優れ、かつ健康であって、経済的理由により修学困難な者。第一種、第二種ともに成績の基準あり。
貸与額	第一種(無利子) 月額 自宅 30,000 円、53,000 円から選択。 自宅外 30,000 円、60,000 円から選択。 第二種(有利子) 月額 30,000 円、50,000 円、80,000 円、100,000 円、120,000 円のいずれか選択。

2) 受給者状況

奨学金の種類	1年	2年	3年	計
東海大学医療技術短期大学奨学金	2	2	2	6
東海大学医療技術短期大学母里知之学生支援資金奨学金	—	—	0	0
医療技術短期大学望星奨学金	80	90	77	247
神奈川県看護師等修学資金	6	5	5	14
日本学生支援機構奨学金	26	38	23	87

4 その他

1) ハラスメント防止について

大学を構成するすべての学生や教職員は、個人としての尊厳を傷つけられることなく、勉学や課外活動、そして、教育・研究に精励できる環境を作り、これを維持していかなくてはならず、本学において、ハラスメントと見なされる行為が、そのまま黙認されたり見過ごされることがあってはならない。

そのため、本学では人権委員会を設け、「学校法人東海大学ハラスメント防止人権委員会」の規程に準じ、ハラスメント防止に取り組んでいる。

2) 携帯ホームページの利用

本学では、受験生・在學生を対象に、携帯ホームページを立ち上げ情報提供を行っている。受験生向けには、入試情報、オープンキャンパスなどの情報を掲載している。また、在學生には、本学の行事予定、授業・試験関係、奨学金関係、国家試験関係など最新の情報を掲載し、情報入手の支援を行っている。

3) 東海大学のコンピュータの利用

東海大学総合情報センターのコンピュータ施設には、各種サーバなど大型のコンピュータからパソコンまで、多数のコンピュータが用意されている。所定の手続きをすることにより利用できる。

4) 東海大学附属図書館の利用

本学の学生は、東海大学の全キャンパスの図書館を利用することができる。受けられるサービスの内容や利用時間帯、休館日等は各館によって異なるため、ホームページ等で確認してから利用するように案内している。

5) 学生相談窓口、学生生活支援室（CLIC）の利用

東海大学湘南健康推進室の学生相談窓口は、学園内の専門機関として、困った時の相談や、自分を理解し向上させるための支援など、学生生活すべてにわたる援助活動を行っている。

東海大学学生支援課（CLIC）は、学生生活をサポートする総合相談・案内窓口である。相談員が親身になって学生からの相談に応じたり、相談の内容によっては、専門の部門・スタッフへの紹介も行っている。

6) 購買・食堂・書店の利用

隣接する東海大学内には「栄養・休養・教養」を賄うアメニティプラザB a Bをはじめ、教科書、専門書、一般書、文庫、辞書、雑誌など約9万冊を販売する紀伊国屋書店東海大学ブックセンターがあり、学生割引で利用できる。

7) スポーツ教育センターの利用

東海大学スポーツ教育センターでは、大学スポーツの情報提供や学生・教職員向けにスポーツ施設の開放、スポーツ用具の貸出しを行っている。スポーツ活動・健康増進、学生・教職員との交流の場として積極的に活用されている。

8) 利用できる宿泊施設

学生ならびに教職員の融和を保ち、かつ学生教科外活動の一端として、学生生活を豊かにするため、次の施設が利用されている。

◇山中湖セミナーハウス

富士山を背景にカラマツ林の中にあり 96年4月にオープンした新しい宿泊施設。

（所在地：山梨県南都留郡山中湖村山中 323-1）

◇嬭恋高原研修センター

施設も充実しており、テニス・ハイキング・スキーなど色々なスポーツを楽しむことが可能である。

（所在地：群馬県吾妻郡妻恋村大字干俣 2401）

◇三保研修館

景勝の地、三保半島の先端にある社会教育センターの施設内の宿泊施設。

（所在地：静岡県清水市三保 2438）

◇銀嶺荘

春香山の標高700mの地点に位置し、広大な石狩湾を展望することが可能。

(所在地：北海道札幌市南区定山溪国有地第 85 林班 3)

◇白馬山荘

白馬三山を背に拇池高原玄関口に位置する快適な所にあり、夏は避暑・合宿、冬はスキー等に利用できる。(所在地：長野県北安曇郡小谷村拇池高原親の原)

◇緑樹山荘

静かな自然環境の中で自炊、ランプ生活を体験することのできる山小屋である。

(所在地：福島県福島市李平字釜ヶ沢)

◇不知火センター

緑と岬と青い海がおりなす戸馳島にあり、熊本市より車で約 60 分のリゾートである。

(所在地：熊本市字城市戸馳 7 番地)

◇湘南クラブハウス

学生会活動・公認団体の課外活動・ゼミなどのための宿泊施設となっている。

(所在地：神奈川県平塚市真田 405)